

まとめ

1. TiO_2 と Carbon black 粒子はサイズに関わりなく（ナノ、非ナノ）吸入/気管内注入試験で、雌ラットに肺腫瘍を発生させる。IARCでは“Sufficient evidence for carcinogenicity to animals” (2B)（総合評価・人発がん物質の可能性はある）である。
2. 生体内では「ありすがた」として凝集体（aggregateまたは agglomerate）としても存在する。
3. 沈着部位（臓器）におけるマクロファージを介する異物炎症反応を誘発すると考えられる。CNTについてについては、含有される鉄によるROS産生（Fenton反応）が起こることが予測され、この意味でアスベストとの類似点が想定される。
4. C60についての情報は乏しい。
5. 動物を用いた毒性・発がん評価が不可欠である。現在の所、短期の代替法は確立されていない。発がんプロモーション作用の検出法はひとつの方向である。

